



## 論点整理

### 第七章 その他諮問で提起された事項の在り方 ⑦

## 幼児教育

### 直接的・具体的な体験の一層の充実

- ◆ どの幼児教育施設においても、幼児の自発的な活動としての遊びを通して資質・能力が育まれるよう、様々な人やものと直接的・具体的に関わる体験を一層充実する方向性で検討すべき

### 幼児教育と小学校教育との円滑な接続の推進

- ◆ 幼児教育施設と小学校の両者が、相互に共通理解を図り、各園・校における架け橋期（5歳児から小学校1年生の2年間）のカリキュラムの作成やスタートカリキュラムの充実等の取組も含め、円滑な接続を一層推進する方向性で検討すべき



### 【具体的な方策】

- 子供の資質・能力を育む学びの連続性を明確にするため、幼稚園教育要領等においても、学習指導要領との連続性を表形式やデジタルを活用して示していくべき
- 子供それぞれの興味・関心や一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出す観点から、幼児教育の「環境を通して行う教育」と小学校以降の授業改善の取組について相互理解が図られるよう、幼小中高の指導方法の趣旨の一貫性を明確にすべき

## 叱ったり注意してくれる人を大事にする

これ あい 之を愛しては、能く よ 勞 ろう すること な 勿 な からんや。

これ ちゅう 焉に忠にしては、能く よ 誨 おし うること な 勿 な からんや。

(訳) 本当に人を愛したのなら、どうしていたわり励まさないことがあるのか。

その人に対して真心があるならば、どうして心をこめて教え導かないことがあるのか。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）